アスリート特集 第３弾

多田修平 選手

陸上 短距離

多田 修平（ただ しゅうへい）。１９９６年６月２４日東大阪市生まれ。住友電工所属。陸上競技（短距離）選手。１００m自己ベストは１０秒０７。東大阪市立石切中学校在学中に陸上競技を始める。２０１５年、関西学院大学進学後に才能が一気に開花。関西学生陸上競技対校選手権（関西インカレ）男子１００mにおいて４連覇を達成。２０１７年５月には日本国内の競技会で日本人選手初となる９秒９４（追い風参考記録）をマークし、陸上短距離界にその名を轟かせた。代名詞であるロケットスタートを武器に日本代表に選出され、同年８月の世界陸上競技選手権大会４×１００mリレーに第一走者として出場し、銅メダルを獲得した。同年９月、東大阪市スポーツみらいアンバサダーに就任。２０１９年４月から住友電工に所属。東京２０２０オリンピック競技大会へ向けて更に加速していく。

©住友電工

東大阪生まれのシンデレラボーイ

２０１７年６月、日本陸上短距離界に衝撃が走った。

日本学生陸上競技個人選手権 男子１００ｍ予選に出場した当時大学３年生の多田選手が、日本国内の競技会において日本人選手で初となる９.９４秒（追い風参考記録）をマークしたのだ。数々の日本人アスリートが破れなかった10 秒の壁を、当時全国的にはまだ無名だった関西の大学生が見事破ってみせた。計測タイムが表示された瞬間、競技場はまるで生きているかのように大いにどよめいた。決勝レースが始まる前には、我先にとゴール地点に数多くのカメラが集まっていた。決勝レースでも１０.０８秒の好タイムをマークし、多田選手は文字通り「ぶっちぎり」で優勝を果たした。この鮮烈なニュースは日本中を駆け巡り、一夜にして全国にその名を轟かせた。多田選手は突如現れた「シンデレラボーイ」と呼ばれ、一躍、日本陸上短距離界のトップアスリート達に肩を並べたのだった。その後、開催された日本陸上競技選手権大会においてもケンブリッジ飛鳥選手や桐生祥秀選手らを抑えて２位に入賞し、自身初となる日本代表に選出された。

ウサイン・ボルトの前を走った男

２０１７年８月、ロンドン世界選手権。個人１００ｍと４×１００ｍリレーの日本代表として臨んだ。彼にとって初となる日の丸を背負っての大会だった。

彼が個人１００ｍ予選レースに登場した時、会場は異様な雰囲気に包まれていた。予選にも関わらず、観客は総立ち。割れんばかりの声援が会場中に響き、まるで決勝レースのような盛り上がりを見せていた。それもそのはず多田選手の真横のレーンには１００ｍ９.５８秒というトンデモない世界記録を持ち、「人類最速のスプリンター」と呼ばれるウサイン・ボルト選手（ジャマイカ）が、現役最後の大会として参加していた。新進気鋭の日本の若武者は初めての世界の舞台で、いきなり世界の頂点に君臨する男と勝負することとなった。多田選手は代名詞であるロケットスタートを決め、レース中盤までボルトにリード。しかし相手は人類最速。最高時速は 44 キロにも達するといわれている。終盤で惜しくも抜かれてしまったものの堂々の準決勝進出を果たした。わずか約１０秒間の出来事に日本中が歓喜し、彼が世界に通用することを証明した瞬間だった。

４×１００ｍリレーでは予選から第一走者を任された。世界に充分通用することが実証されたロケットスタートを活かしての起用だった。開催国のイギリス、強豪アメリカに続き、日本は３位入賞。見事銅メダルを獲得した。

©住友電工

小さい頃から走ることが大好きだった多田選手は、東大阪市立石切中学校で陸上を始めた。大阪桐蔭高校時代、１００ｍ１０秒台に到達するも全国の頂点に立つことはできなかった。スランプやケガで陸上を辞めようと思ったこともあったという。それでも、陸上を始めたきっかけである「走ることが楽しくてもっと走りたい」という初心を忘れずに努力を続けた結果、遂に関西学院大学で才能が一気に開花した。現在は、住友電工に所属し、拠点を関東に移して練習に励んでいる。東京２０２０オリンピック競技大会は延期となってしまったが彼が見据えるゴールは変わらない。日本が世界に誇るスピードスターはこれからも躍進を続けていく。

スポーツみらいアンバサダー

SPECIAL INTERVIEW

Q 子どもの頃の夢は何でしたか？
A 野球選手です。

Q 尊敬する人は誰ですか？
A ウサイン・ボルト選手です。本番でしっかり自分の最高のパフォーマンスを発揮することができ、そのスター性も尊敬しています。

Q 写真にハマったきっかけは何ですか？
A 大学時代、陸上部で一眼レフカメラがブームになり、皆に勧められて始めたところ、想像以上に綺麗な風景写真が撮れてハマっていきました。

Q 拠点を関東に移して、困ったことはありますか？
A 慣れ親しんだ東大阪市とは違い、電車の路線も多く、すぐに迷ってしまう点です。

Q YouTube を始めたきっかけは何ですか？また、スタートのコツなど有益な情報を発信されていますが、これからアップ予定の企画はありますか？
A コロナ自粛期間中に様々な大会が中止になり、少しでもファンの方々や、中高生達の力になることが出来れば良いなと思い、始めました。また、僕自身も少しYouTube に興味があり、最近は更新できていませんが、試合の結果報告や、これからの予定について投稿して行けたら良いなと考えています。

趣味とは思えないほど本格的！（本人撮影）

公式 YouTube も要チェック！
「**おしゅうチャンネル**」

Q 今までの競技人生において、一番心に残っているレースは何ですか？
A やはり 2017 年世界陸上予選と準決勝で一緒に走ったウサイン・ボルト選手とのレースです。引退された試合なので、最後のレースで一緒に走ることができ、良い思い出となっています。

Q モチベーションを保ち続けるために大事なこととは？
A オリンピックの延期や様々な大会が中止になり、正直なところ、現在モチベーションを保つのがすごく困難な状態ですが、やはり試合で勝った時の嬉しさや、自己ベストで走ったときの爽快感が忘れられず、もっと活躍して有名な選手になりたいという思いが強いです。

Q 現在の目標は何ですか？
A オリンピックで 100m 決勝進出、また 4×100m リレーにおいて金メダルを獲得することです。

Q 自粛期間中はどのようなトレーニングをしていましたか？
A 人の多いところを避け、路上の坂や平地を探して走っていました。

Q 来年の五輪に向けてどんな思いを持っておられますか？
A 練習する期間が一年延び、さらに強くなれると思いながら練習しております。調子も昇り調子なので、ピークを合わせて活躍できるように頑張ります。

Q 東大阪市内で好きなスポットはありますか？
A 石切神社の夏祭りなど友達と行くことが多かったので、凄く思い出深いです。

Q 東大阪市内でおススメスポットはありますか？
A やはり石切神社に行くことが多かったです。

Q 最後に、未来のトップアスリートを目指すこどもたちへ向けて、エールをお願いします。
A 私自身、子供の頃は全く活躍していない選手でした。また陸上競技を辞めようと思うこともありました。ですが、諦めず努力をしたことで、世界で戦えるアスリートに近づいたので、皆さんも諦めずに努力し、それぞれの分野で上を目指して欲しいと思います！

今回は、有名アスリート特集第３弾として、陸上短距離 多田修平選手の特集をお届けしました。みなさん応援よろしくお願いします！

最後に、ご協力いただいた多田選手、本当にありがとうございました！

第４弾は、ウィルチェアーラグビー世界選手権において日本初の金メダル獲得に大きく貢献したあの人が登場！お楽しみに～！